

再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：奥村 康博

事業名 一般国道23号 <small>がまごおり</small> 蒲郡バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 中部地方整備局			
起終点 自：愛知県豊川市為当町 至：愛知県額田郡幸田町芦谷		延長 15.0 km			
事業概要 一般国道23号名豊道路は、愛知県豊橋市と豊明市を結び、沿線の8市1町を通過する延長72.7kmの大規模バイパス事業で、地域高規格道路として整備している。 一般国道23号蒲郡バイパスは、地域高規格道路名豊道路の一部を構成し、交通渋滞の緩和、物流効率化、災害に強い道路機能の確保等を目的とした延長15.0kmのバイパス事業である。					
H9・H19年度 事業化	H3年度 都市計画決定	H15年度 用地着手			
全体事業費 1,307億円	事業進捗率 (平成31年3月末時点) 約60%	供用済延長 5.9 km			
計画交通量 62,100台/日					
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;"> B/C (事業全体) 3.1 (残事業) 8.8 </td> <td style="width: 40%;"> 総費用 (残事業)/(事業全体) 507/1,428億円 (事業費：416/1,336億円) 維持管理費：91/91億円 </td> <td style="width: 30%;"> 総便益 (残事業)/(事業全体) 4,450/4,450億円 (走行時間短縮便益：4,134/4,134億円) (走行経費減少便益：273/273億円) (交通事故減少便益：43/43億円) </td> </tr> </table>	B/C (事業全体) 3.1 (残事業) 8.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 507/1,428億円 (事業費：416/1,336億円) 維持管理費：91/91億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 4,450/4,450億円 (走行時間短縮便益：4,134/4,134億円) (走行経費減少便益：273/273億円) (交通事故減少便益：43/43億円)	基準年 令和元年
B/C (事業全体) 3.1 (残事業) 8.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 507/1,428億円 (事業費：416/1,336億円) 維持管理費：91/91億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 4,450/4,450億円 (走行時間短縮便益：4,134/4,134億円) (走行経費減少便益：273/273億円) (交通事故減少便益：43/43億円)			
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=2.8~3.4 (交通量±10%) 事業費：B/C=3.0~3.2 (事業費±10%) 事業期間：B/C=2.9~3.3 (事業期間±20%) (残事業) 交通量：B/C=7.9~9.7 (交通量±10%) 事業費：B/C=8.1~9.6 (事業費±10%) 事業期間：B/C=8.4~9.2 (事業期間±20%)					
事業の効果等					
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線（名鉄バス）が存在する。 ・空港（中部国際空港）へのアクセス向上が見込まれる。 ②物流効率化の支援 ・重要港湾もしくは特定重要港湾（三河港）へのアクセス向上が見込まれる。 ③都市の再生 ・区画整理（蒲郡蒲南地区、蒲郡中部地区、蒲郡駅南地区）等の沿道まちづくりとの連携がある。 ④国土・地域ネットワークの構築 ・地域高規格道路「名豊道路」の一部として、全区間が指定されている。 ⑤個性ある地域の形成 ・拠点開発プロジェクト（東三河地方拠点都市地域基本計画）、地域連携プロジェクト（国際自動車産業交流都市計画）を支援する。 ・主要な観光地（ラグーナテンボス）へのアクセス向上が期待される。 ⑥安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設（豊橋市民病院）へのアクセス向上が見込まれる。 ⑦災害への備え ・第一次緊急輸送道路（愛知県地域防災計画より）として位置づけられている。 ・緊急輸送道路（国道1号）が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する ⑧地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。 ⑨生活環境の改善・保全 ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。					

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

10市1町から構成される名豊道路建設推進協議会が早期整備を要望。

国道23号蒲郡バイパス建設推進協議会が早期整備を要望。

愛知県知事の意見：

○「対応方針（原案）」に対して異議はありません。

一般国道23号 蒲郡バイパスは、完成自動車の国際海上輸送のハブ港である三河港と輸送機器等の生産拠点とを結ぶ本県の重要な東西軸である名豊道路の一部を構成している。本道路が整備されることで、蒲郡市街地など周辺地域の渋滞が緩和し、物流の効率化が期待される。また、発生が危惧される南海トラフ地震等の大規模災害時には、緊急輸送道路としての機能も有し、地域の安全・安心、国土強靱化の観点からも重要な道路である。そのため、未開通区間である豊川為当IC～蒲郡IC間の工事を推進し、早期に開通見通しを公表するとともに、一日も早い開通をお願いしたい。

なお、事業実施にあたりましては、一層のコスト縮減を図るなど、より効率的な事業推進に努められるようお願いしたい。

事業評価監視委員会の意見

・「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・蒲郡市街地を通過する国道23号や、蒲郡バイパスに並行する国道1号では、渋滞損失時間が愛知県平均を大きく超える区間が存在し、交通渋滞が著しい状況である。
- ・三河地域は、東海・東南海地震等の大規模地震の発生が予測される地域である。
- ・三河地域は、愛知県の輸送機械出荷額の約3割を占める、自動車産業の一大集積地である。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は約60%（平成31年3月末）。用地取得率は約98%（平成31年3月末）。
- ・蒲郡IC～幸田芦谷IC間（延長5.9km）は、平成25年度に暫定2車線供用済み。
- ・豊川為当IC～蒲郡IC間（延長9.1km）について、設計協議、用地買収を推進し、工事を推進する。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・豊川為当IC～蒲郡市IC間（延長9.1km）について、早期暫定2車線供用を目指し、調査設計、用地買収、工事を推進する。

施設の構造や工法の変更等

- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進していく。

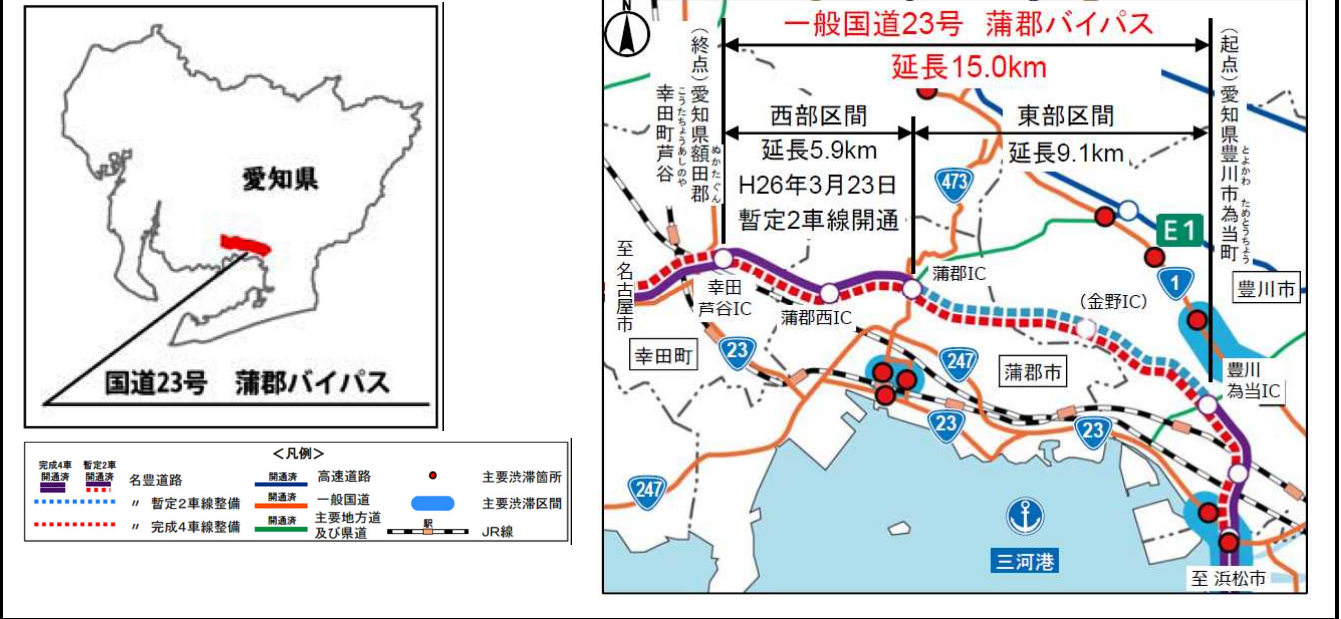
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。